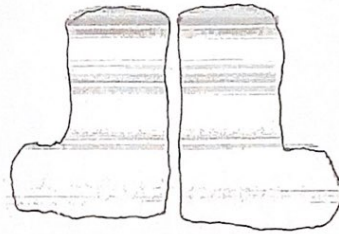


# 母塾

2019・6・11

VOI-20



新小岩幼稚園・未就園児クラス

『 今 目の前にいるひと 』

アドバイザー 猪之鼻晴子

「一番大事なひとって誰？」と長男が小3の時に訊いたことがある。  
ママと言うか、友だちの名前を言うか。返ってきた答は予想しないものだった。  
「その時一緒にいるひと」

「だって、その時いるひとと何をするかで変わっちゃうでしょ。」  
もう長男は憶えていないかもしれないが、世界観がひっくり返るくらい  
私にとって大切な会話だった。

「誰が一番大切か」母親とすれば、兄弟弟妹がいたら、どの子も平等にしようと思う。  
お兄ちゃん扱いしないように。赤ちゃん扱いしないように。  
しかし、「平等に・みんな同じ」はとてもしみしいことではないかと気づいた。  
先生や親に「みんなと同じだよ」と言われたらさみしく思う。  
それよりもやはり「一番大切」と思われたい。  
話している時に相手がスマホを見ると少しさみしく思う。  
誰でも目の前にいるひとにはよそ見をしないで一番見てもらいたいのだ。

赤ちゃんが生まれて上の子が赤ちゃん返りをするのは、「一番」だった自分が  
「一番」でなくなるから。「一番」かわいい赤ちゃんに戻ればまたママに見てもらえると思うから。  
駄々をこねて、おもらしをして、必死にかわいい赤ちゃんのマネをする。  
しかしその甲斐もなく、赤ちゃんではない「赤ちゃんのマネ」は  
かえってママに「うっとうしい」と嫌われてしまう。  
赤ちゃんが生まれてパパの機嫌が悪くなるのも「一番」を奪われたから。  
こちらの方が更に複雑でママに嫌われる。  
みんな「一番大切」が欲しいのだ。

上の子を幼稚園に送ったら下の子をひとりっ子のように抱っこしよう。  
下の子が寝てしまったら、上の子とこっそりアイスを食べよう。  
子どもたちのいない昼間は独身のように仕事に没頭しよう。  
子どものように友だちと大笑いしよう。

年中のロクに次女が「ねえ、すーちゃんとのばちゃんどっちが好き？」  
と訊くと「のばちゃん！」と。  
「うそつけ、すーちゃんという時はすーちゃんって言ってたじゃない。」

「だっていっしょにいるひとがあそんでくれるから」  
「ようちえんにいるときはせんせいがすき」  
子どもはちゃんと今を大切にしている。

harukoinohana1717@gmail.com